

発行人
財団法人エイ・エフ・エス日本協会
事務局長 新谷 勝利
編集長 河野 淳子
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル6F
☎03-5251-0171 ㊟03-5251-0177

新役員決定！ 新理事会スタート

活躍するAFSリターナー

ベンチャー企業の育成に心血を注ぐ

日本エンジェルズ・フォーラム代表理事 **井浦 幸雄**さん (YP6期)

芸術のもつ力を次世代に伝えたい

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 館長 **上原 恵美**さん (YP8期)

● 日本協会に「構造改革チーム」発足

● AFS海外パートナー **ベネズエラ**

● AFS体験から得たもの

● クローズアップ地域活動

● ボランティア活動を見直すよい機会に

● 連載エッセイ **日本留学十七年後**
マブソン・ローラン



新役員決定！ 新理事会スタート

去る4月1日の臨時理事会にて、吉田 太郎一氏の顧問への就任、垂水 公正氏の理事長への就任が決定しました。吉田顧問には、1999年4月より4年にわたり理事長としてご活躍いただき、まことにありがとうございました。

ご挨拶



(財)エイ・エフ・エス日本協会
理事長 垂水 公正

このたび皆様のご推挙により、エイ・エフ・エス (AFS) 日本協会の理事長に就任いたしました。

現在、国内では主としてデフレによる「縮み現象」が広がり、政治・経済の低迷、停滞が続いています。また、国際情勢も戦争の影響で極めて不安定な状態にあります。このような時期に、

多文化間の人的交流の促進を目的とするAFS日本協会の組織の代表として活動するのは大変意義あることと思いつつ、同

時にその責任の重さを痛感しております。

私は(財)日本フォスター・プラン協会会長・理事長でもあり、国際的なボランティア活動について多少の経験があるとはいえ、AFSの活動は全くはじめてのことです。しかしながら、AFS設立当初の人々が抱いた「異文化の相互理解により世界平和の実現に寄与したい」という思いは、今まさに世界中の人々と共有しなければならないと痛切に感じています。戦争やテロが繰り返されるかぎり、真の世界平和は達成できないことを、すべての人が学ばなければなりません。

AFSプログラムの誕生から50年あまりが経ちました。そしてこれからの時代こそ、ますますAFSの目的を広く社会に認知させる必要があるでしょう。皆様とともに力を合わせ、AFS活動の果実をより大きくしていく決意です。

ご挨拶

私は、1999年4月に故片桐 良雄氏の後任として理事長に就任しました。在任中に、年間の交流数が1,000人を超え、交流国が40カ国を超える規模に成長したことは、ひとえに皆様のおかげであると存じます。このような時に垂水公正 さんを後任の理事長にお迎えできたことは、まことにうれしかぎりです。何卒、私と同様のご厚誼を新理事長にも賜りたいと存じます。



(財)エイ・エフ・エス日本協会
前理事長・顧問 吉田 太郎一

退任される理事・監事の皆様へ

吉田理事長をはじめ、理事をお務めいただいた河野さん、スカリオンさん、福原さん、堀さん、宮内さん、監事をお務めいただいた高橋さんが3月末をもって退任されることとなりました。この場をお借りして、皆様に心からお礼を申し上げます。

ここ数年、日本協会の受入・派遣両事業は、少子化、経済低迷などの影響を受けて厳しい状況にあり、今般退任される役員の方々には、さまざまな角度からお知恵を拝借して参りました。今後も、何かにつけてご指導賜りますと共に、来年に控えておりますAFS日本協会50周年記念事業をはじめ、AFS友の会などの機会にお目にかかれまことを祈念いたしております。(AFS日本協会副理事長 石川 郁久)

新役員 (4月1日現在)

理事長

垂水 公正 新 (財)日本フォスター・プラン協会会長・理事長

副理事長

石川 郁久 再 東レ(株) メンブレン事業部長

理事

井手 秀彦 新 富士投信投資顧問(株) 常務取締役 業務本部長

小池 泰子 再 新潟市教育委員、AFS新潟県代表、前AFS日本協会新潟支部長

新谷 勝利 再 (財)エイ・エフ・エス日本協会事務局長

武富 将 新 (株)ボッシュ・オートモティブ・システム 監査役

辻 幸夫 再 慶應義塾大学教授

津田 倫男 新 (株)フレ임ワーク・マネジメント 代表取締役

鳥飼 玖美子 再 立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科教授(委員長)

野村 彰男 再 国際連合広報センター 所長

花輪 宗命 再 大東文化大学経済学部教授、東京多摩支部長

三好 正也 新 (株)エフエム ジャパン 代表取締役会長兼社長

フクシマ グレン 新 日本ケイデンス・デザイン・システムズ社 社長

渡辺 亘之 再 (財)ソニー教育財団 専務理事

監事

後藤 英生 再 環境エンジニアリング(株) 代表取締役社長

濱四津 尚文 再 浜四津法律事務所

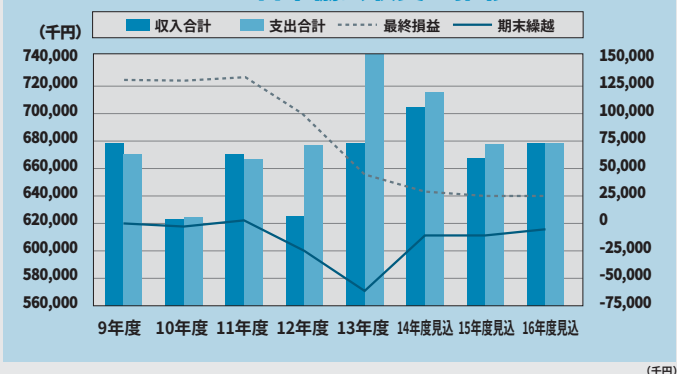
新 今期初就任 再 前期より引き続き就任

日本協会に「構造改革チーム」発足

AFS日本協会は、「構造改革チーム」を発足し、過去数年の赤字財政からの脱却を目指します。

以下の表は、「平成15年度予算検討チーム」によるシミュレーションです。同チームの提案で発足した「構造改革チーム」は、日本協会の財務、活動を見直すと共に、具体的な実行計画の策定を今年の夏までに行い、最終損益の改善を目指す方針です。

AFS日本協会収支の推移



	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度見込	15年度見込	16年度見込
収入合計	657,885	622,780	653,547	627,229	676,784	707,939	667,540	676,869
支出合計	655,042	623,272	651,489	656,627	739,835	716,184	676,932	676,466
最終損益	2,843	-492	2,058	-29,398	-63,051	-8,245	-9,392	403
期末繰越	129,453	128,961	131,019	101,620	38,570	30,325	20,933	21,336

AFS日本協会は、非営利団体として公益事業を行っています。財政状態が悪化すると、活動内容に大きな影響を及ぼし、ひいては、AFSのミッションやビジョンが実現できなくなるおそれがあります。日本協会が直面している困難な状況をご理解いただき、ぜひともご協力をお願いいたします。

●会費支払い、寄付のお願い

AFS活動を継続していくためには、皆様からの会費、寄付収入が重要な財源です。つきましては、より多くの皆様にご理解とご協力をお願いいたします。AFS日本協会は2004年に50周年を迎えます。これを機に、1万3千名以上のAFSリターニーの皆様へ、AFS活動をより深く理解していただき、寄付などにご協力いただきたいと思います。

●ボランティア活動参加のお願い

AFSはボランティア活動によって支えられていますが、プログラムや派遣・受入対象国の多様化に伴い、事務局の役割が年々大きくなっています。そこで、もう一度原点に立ち返り、事務局機能を最小限にすると共に、ボランティアによるAFS活動の充実を図りたいと考えています。より多くの方々に、ボランティアとしてAFS活動に参加していただきたいと思います。

AFS海外パートナー

AFSベネズエラ

AFSベネズエラは、昨年冬、政情不安によりプログラムの中断を余儀なくされました。日本のリターニー有志は、AFSベネズエラの活動を支援するために募金活動を行い、ベネズエラとの交流継続を願っています。



最大の危機に直面して

AFSベネズエラ事務局長 カルロス・ロメロ



ベネズエラは現在、過去40年間で最大の危機に直面しています。違いを尊重できない偏狭な心が社会を分断し、今までにない長期間のストライキが起きています。

我々はAFS国際本部と会議を重ね、昨年12月、ベネズエラに滞在しているAFS参加生一人ひとりの健康と安全を優先し、125名の参加生（うち日本の生徒4名）全員の国外退避を決断しました。

AFSベネズエラのボランティアや職員は大きな衝撃を受けました。そうした状況でも、将来を信じ、AFSのミッションや価値観を強く信じて活動し続ける気持ちを与えてくれたのは、AFS日本協会をはじめとするパートナー国からの励ましのメッセージでした。

AFS日本協会のリターニー、特にベネズエラでAFSの一年を過ごした若いリターニーたちの行動に心から感謝の意を表します。彼らは、よりよい将来に向けて協力し合うためには、AFSの価値観が大切だと教えてくれたのです。そして、「より公平で平和な世界を築くこと」は我々の理念であったことを思い出させてくれました。

AFSベネズエラ支援募金協力者の皆さまへ

ベネズエラからのリターニーによる募金活動は、多くの方々の温かいご支援を得て、最終的に219,572円を集めることができました。皆様のご協力、本当にありがとうございました。ベネズエラの政情安定、復興を願いながら、今回集まったお金がAFSベネズエラの活動を支援する小さな一歩となってくれればと思います。

（リターニー有志代表 新谷 麻穂 YP37期ベネズエラ）

ベンチャー企業の育成に心血を注ぐ

日本エンジェルズ・フォーラム代表理事 井浦 幸雄さん(YP6期)

日本経済再生のために立ち上がる

バブル崩壊後の「失われた10年」を海外で過ごした井浦さんは、唇を噛み締める思いを何度も体験されたそうです。

「日本経済再生のために何かしなくては」

その思いが井浦さんを帰国へとかりたてました。

帰国後は、日銀時代の豊かな経験と人脈を総動員し、「ベンチャー企業の育成」に心血を注いでいらっしゃいます。11月末のネットワーキングの会では、そんな井浦さんのご活躍ぶりに接することができました。会場にはYP9期生の原田 義昭氏(衆議院議員)もかけつけ、熱いエールを送りました。



▲井浦 幸雄さん

起業家と投資家の出会いをサポート

「昨今の経済的・政治的な閉塞状態をただ嘆いていても状況は変化しない。リスクはあるけれど大きな夢を描いて一歩前へ踏み出そう」というベンチャー起業家たちと、資金を提供する個人投資家たち。その双方に出合いの場を提供し、必要な助言、支援を行うことで日本経済の活性化をはかろうというのが井浦さんの発想。彼はそれを実現するために、日本エンジェルズ・フォーラムと日本エンジェルズ・インベストメント(株)を立ち上げました。

2カ月に一度開かれる日本エンジェルズ・フォーラムの会では、200人程の個人投資家(エンジェルズ)を前に起業家が15分程の会社紹介を行います。エンジェルズはその中から、「これ!」と思う企業に投資を決定します。資金不足の場合は日本エンジェルズ・インベストメント(出資者60名強、資本金2.5億円)が応援します。

経済活性化のためのこのユニークな発想は、マスコミにも注目され、テレビや新聞などでも度々紹介されました。

成功するベンチャー起業家たち

日本エンジェルズ・フォーラムのサポートによって成長した2社の社長が紹介されました。

便利屋トータルサービス(株)は、介護の必要はないが人手は必要という高齢者を対象にさまざまなサービスを提供しています。資本金300万円でスタートし、3年間で3億円を売り上げる企業に成長しました。時代のニーズに合ったサービスを提供しながら信頼関係を築いてきた結果といえます。

ニーナ(株)も、消費者ニーズをつかんで成功を収めた会社です。アミノ酸と海洋深海水に注目したスキンケア用品が自然志向の高まる中で注目を集めました。資本金1,000万円でスタートし、3年間で資本金8億円、売り上げ6億円へと急成長しました。

2社のもうひとつの共通点は、働く人々が生き生きとしていること。よい仕事を介して顧客と働く人の双方が活力を得て、その支援者も満足する。これは、ベンチャー企業が成功するための条件だといえるでしょう。

日本人はもっと自分に自信を

井浦さんはベンチャー企業育成の意義をフランス料理の普及に例えます。

「フランス革命の後、王侯貴族を頼れなくなった料理人たちは、新しい主人を探すかわりに自分たちでお店を開きました。彼らのベンチャー精神のおかげで、今日我々はフランス料理を堪能できるのです」

そして、次のようなメッセージを聴衆に送ると、会場には盛大な拍手が湧きました。

「日本人は自分にもっと自信をもていい」

視野の広さ、軽やかな行動力、躍動する活力を兼ね備え、次々と支援者を集めていく井浦さんのダイナミックさに感動し、お話を聞くうちに、ド素人の私も何かお手伝いしたいという気持ちになってきたから不思議です。

11月27日、「AFS友の会」ネットワーキングの集いより

文/永野 悠記子(YP7期)

プロフィール

井浦 幸雄(いづら・ゆきお)

1959年-60年、米国ミネソタ州にAFS留学。65年-89年、日本銀行勤務の後、スイスに渡る。スイスの国際決済銀行勤務(89~99年)を経て99年、日本エンジェルズ・フォーラムを、2000年、日本エンジェルズ・インベストメント(株)を設立し、代表に就任。節子夫人もAFSリターニー(YP7期、米国ワシントン州)。

芸術のもつ力を次世代に伝えたい

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 館長 上原 恵美さん (YP8期)

活躍する
AFSリターニー

1月25日、「AFS友の会」新年会が東京・青山で開催されました。ゲストスピーカーはびわ湖ホール館長の上原 恵美さん。昨秋、びわ湖ホールで上演されたオペラ、ヴェルディの『エルナーニ』のビデオを映しながら、近江から文化の香りを運んでくださいました。

文化芸術を仕事として

滋賀県の特徴は、琵琶湖とそれをとりまく山々の自然、交通の要衝、そして豊かな文化遺産。近江を愛しこの地に眠る松尾芭蕉の遺言「ここは東西の巷、さざなみ清き渚なれば、生前の契り深かりしところなり」に見事に表されている。

額に汗して働くことこそ価値を生むと思い大学卒業後労働省に入省した上原さんは、滋賀県に移ってからは心の豊かさを求める文化芸術に関わる仕事をしてきた。職歴を振り返ると、日本社会が移り変わってきたことを深く感じる体験だったという。

びわ湖ホールの試み

設計の段階から携わってきたびわ湖ホールでは、若杉 弘氏を芸術監督に迎えて、毎年一本ずつ、ヴェルディの作品のなかから日本でまだ一度も上演されたことのない作品を制作上演している。オペラ制作はたいへんお金がかかるもの。たとえば『エルナーニ』では、装置、衣装とも全部イタリアで制作して、日本に運んできた。約3カ月の音楽稽古があり、一人ひとりの音楽家を3カ月間拘束することになる。80人ほどの合唱団の人たちも同様だ。一般にチケット収入は総制作費の3分の1ほどにしかならないので、どうしても外から資金が必要になる。

今後の課題



▲びわ湖ホール(外観)

日本の芸術環境は世界のレベルから見るとさびしい限りである。びわ湖ホールは16人の声楽アンサンブルをレジデントとして抱えているが、全国に3500余あるホールや文化会館のなか

ではごく例外的存在。一昨年12月に文化芸術振興基本法が成立したが、現下の経済情勢の下、厳しい財政環境が続いている。今後それぞれのホールが生き生きとした活動を展開してゆくならば、日本の芸術文化環境は大いに変わっていくだろうと上原さんは期待する。

大事なことは、芸術に対する愛情と見識を持っている方に芸術監督をお願いすることだという。



▲上原 恵美さん

次世代へのおくりもの

美術館は、コレクションを持ち、企画展示をする場所という概念が定着し「ハコモノ」概念を脱却してきたが、ホールも「ハコモノ」概念を脱却して舞台芸術を創造、鑑賞する場所になってほしい。

20世紀に私たちは一生懸命働いて経済的に豊かになったが、次の世代に何を残そうとしているのだろうか。自然や淡水を残すことも大切という気運が醸成されてきたが、芸術のもつ力をぜひ伝えていきたいと上原さんは念願している。今年は11月下旬にヴェルディの『シチリアの夕べの祈り』を上演する予定。「どうぞ、みなさまおそろいでびわ湖ホールへお越しください」



▲びわ湖ホール(内観)

1月25日、「AFS友の会」新年会でのスピーチより
文／鈴木 百合子 (YP11期)

プロフィール

上原 恵美(うえはら・えみ)

1961-62年、米国ペンシルヴァニア州にAFS留学。東京大学を卒業後、労働省に入省。78年、滋賀県へ転出。教育委員会文化部長、商工労働部長、政策監、びわ湖ホール準備局長などを経て2001年4月から現職。この間、滋賀県立近代美術館、信楽陶芸の森の開館準備に携わりそれぞれの館長を兼務。

帰国生

■周囲を冷静に見られるようになり、周りの人のことも考えて行動できるようになった。

■辛いこともたくさんあったが、様々な経験から今までに知らなかった自分を発見した。

■日本を基準に物事を測らなくなったため、自分の将来の夢が変わった。

■以前は好きではなかった日本の生活や文化などが、自分にとって大切なものだと気づいた。

■この一年間の良いこと、悪いこと全てがこれからの私の人生にかけがえのないものとなった。多くの人と話し、様々なことを学んだ。

■留学前は語学の上達を第一の目標としていたが、滞在中には、人間性の向上、異文化の理解が第一となった。

■ホストファミリーとは様々なことを一緒に真剣に考え、十分に語り合い、日本では考える余裕も無かったことを話し合えた。自分を見つめ直した。

■「留学すれば何かが変わる」「行けばできる」と考えていたが、どこに行っても自分は自分。結局は自分次第だとわかった。

■とにかくいろいろな人がいる。人種、宗教の違いもそうだが、個人が他者と違うことを寛容する空気がある。

(48期夏組帰国生アンケートより)

保護者

■子供の独立心が強くなり、自分の進路にも積極的になった。また、多くの人たちに助けられて生きていることを実感したようだ。

■相手の意見を聞く余裕が子供に出来た。また、親の方も子供の能力を信頼するようになった。

■今までの自分のこと、日本での恵まれた環境などを振り返る機会となったようだ。親への感謝の気持ちを言葉にするようになった。

■将来への方向性はわかったが、何がしたいかまでは見つけられなかったようだ。

■自分で目標を決め、達成するための努力をするようになった。

■帰国後は家庭での会話が 많아 なった。

■子供が側にいなくても一緒に体験を共有したい気持ちから、派遣先国を知ろうとした。また、一生の付き合いともなるような家族が得られ、親も良いAFS体験をした。

(48期夏組保護者アンケートより)

AFS体験が

AFS活動の要となる年間派遣・受入事業。その参加者たち

派遣

壁を作っていた自分に気づいて

吉田 知紗 (YP48期チェコ/福岡県立福岡高校3年)

チェコ人は外国人やよそものが嫌いだと言われている。学校のクラスでも女子は大体小さい頃からの仲良し二人組というのが決まっている。最初の頃、私が仲良くなった子の仲良しがやきもちを焼いて私を無視するようになった。私は二人から離れ、広く浅い友達付き合いをするようになった。友達の輪を広げることはできたが、親友が欲しいという思いと親しくなり過ぎるのはよくないという思いの間で葛藤が続いた。「皆私のことを留学生としか見ていない。本当に親しくなろうとは思わないんだ」と悩んだ。

修学旅行の時に部屋で話していて、皆が私が1年で帰国することを初めて知り驚いた。「ちさ、帰らないで。1-A(私のクラス)はちさも入れて全員で1-Aなんだよ。皆で2-Aになろうよ」と一人の子が言ってくれてすごく嬉しかった。そして、「壁を作っていたのは皆ではなく、『チェコ人は…、私は外国人だから…』」と思い込んでいた



▲クラスメートとともに

自分だったんだ」と気づいた。それからあまり悩まず気楽に考えるようになり、仲の良い友達もできた。



▲転機となった修学旅行

コンピューターの時間、英語で私に説明していた先生に「ちさはもうチェコ語がわかるんだから、チェコ語で説明してあげて」と怒ったクラスの友達。クラスの子全員でひそかに準備してくれた、お別れパーティー。「チェコ人はこういう国民性だから苦労してるでしょ? でも私はずっとちさの親友だよ」と言ってくれた親友。最初の友達との仲も復活した。そしてAFSの仲間。最初は皆が私のつたない英語を聞いてくれたけど、最後はチェコ語で話していた。最後のオリエンテーションでは皆で丘の上に行き、夜の10時まで話し込んだ。あの丘の上からの景色と、皆で手をつないでの帰り道に見た2つの流れ星は一生忘れない。辛いことはいっぱいあったけど、その分うれしかったこと、感動したこと、チェコに来て良かったと思った瞬間もいっぱいあった。

募集中

AFS体験の感動をぜひあなたも…
派遣生、ホストファミリー募集中 (p12参照)

から得たもの

の体験、感想など、生の声を読者の皆様にお届けします。

文化のプリズム

クラレテ・クラリッサ (2002年度 年間受入生/フィリピン)

受入

クラリッサさんは、今年1月まで青森県の長谷川さん宅に滞在、青森明の星高校に通いました。以下は、昨年10月に開催された第38回国際教育生徒研究発表大会（青森県高等学校国際教育研究協議会主催）のために、彼女が自らのAFS体験をもとに自力で書き上げ、入賞に輝いたスピーチ原稿（一部）です。

もし全ての人間が同じ性格と特徴を持っているのなら、この世の中はたぶんつまらないものでしょう。違いがあるからこそ、世の中が活気にあふれているのです。同様に文化も違います。文化の違いが生活に彩りを添える一方、根深い問題の原因にもなりうるのです。日常生活で文化の違いはあってもそれをうまく生かすことができればよいのです。



▲文化の違いを体験

交換留学というのは文化の違いを体験できる素晴らしい機会だと思います。私は日本で7ヵ月で人間として賢くなり、強くもなりました。日本と私の国のフィリピンとの文化の似たところは容易に受け入れられましたが、文化の違いは私にとって驚きでした。（中略）



▲友達との思い出を胸に...

世界は急速にグローバル化しています。今日、一つの文化の価値観だけで物事を進めることは不可能なことです。世界をガラスのプリズムとして見てみるとわかるように、光の両端は違った色ですが、その間には全ての色の光のスペクトルがありつながりあっています。同様に世界の文化もつながりあっていてどれも切り離せないものなのです。

ただ単に違うというだけの理由で、ある文化が正しいとか間違っているということではありません。存在する全ての文化を生かしながら、世界中の人々がお互いを理解し尊敬し合うようになれば平和な世界が築き上げられていくと思います。このことが今後ますます重要になっていくと私は考えるのです。（原文より抜粋）

ホストファミリー

◆1年近く生活を共にして、理性ではない「絆」のようなものが自然と出来上がったことを互いに実感しあえた。

- ◆言葉が通じなくても、必ずうやむやにせず互いが納得できるまで手段を講じて話し合うことが大切。いろいろな問題や出来事があったからこそ、最終的に関係が良くなったと思う。
- ◆短期受入ではゲストのまま帰すようで物足りなさを感じていたが、今回の年間受入で、じっくりと留学生と付き合い理解できた。
- ◆留学生を受入れて、自分たちの価値観や人生観はなんて固定的だったのか、もっと流動的な物の見方をして生きて行きたいと感じた。
- ◆帰国後、いなくてはならない家族がいなくなったような寂しさを感じている。
- ◆受入生を迎え入れることで家族内での協力や会話の大切さを実感した。受入生を通じて多くの人のつながりもできた。

（2002年度ホストファミリーアンケートより）

ホストスクールの先生

◆受入生の帰国前パーティで多くのクラスメートが涙を流したことが、受入れの満足度を表していると思う。

- ◆言葉の違う留学生が親元を離れ、一生懸命日本で生活していた姿は在校生に大きな影響を与えた。
- ◆受入生を通して、その国のこと、考え方、生活習慣などに対して在校生の意識、関心が高まった。
- ◆英語圏だけでなく、非英語圏の生徒の受入れで幅広い異文化交流ができた。
- ◆生徒だけでなく教員にとっても学校内のこと、日本国内のことだけにとらわれるのではなく、日本の外、世界に目を向ける良い刺激になった。
- ◆クラスにとってはよい体験だったが、学校全体への波及は今後の課題だ。
- ◆受入生が国際理解論文に受賞した。そこまで日本語が上達したことはホストスクールとしても嬉しい。

（2002年度ホストスクールアンケートより）

受入生

◆今回の体験で自分が大きく成長した。この1年間、いつも全てが上手くいった訳ではなく、たくさん泣いたし、自分の人生や人のお世話

- になることの意味をよく考えた。（コスタリカ）
- ◆日本語はまだ上手く話せない。でも日本に戻ってきたら、僕を待っていてくれる人がいるのがうれしい。（フランス）
- ◆自分も成長したし、日本語もそんなに問題ない。でも、帰国目前になって気が付いた。もっと周囲の人や学校生活に目を向けたい良かったって。自分だけの体験でなく、周りの皆の体験や思い出でもあるんだから（ドイツ）。

（2002年度受入生アンケートより）



クローズアップ 地域活動

首都圏支部の活動と課題

日本の人口の多くが密集する東京・神奈川・千葉・埼玉の首都圏。この地域でのAFS活動をより活性化するため、管轄地域を細分化して1年が経ちました。現在首都圏支部がかかえる課題はどのようなものか、また、今後の目標は何か、地域代表を務める神奈川支部の仲村支部長に伺いました。

2支部から6支部へ

昨年4月に、従来の関東および神奈川支部が発展解消し、東京(区部)・東京多摩・埼玉・京葉・湘南・神奈川(県東部)の6支部が誕生したことで、1都3県の支部数は、一気に3倍に増えました。今年2月の地域会議で各支部の1年を振り返りましたが、何とか順調に進んでいる支部もあれば、大変苦勞している支部もあり、状況は様々でした。特に新支部の悩みを全支部で考えたことで、一体感が生まれ、今後の活動の方向性も多少見えてきました。

ホストファミリー・ボランティアの確保が共通の課題

すべての支部に共通する当面の最大の課題はホストファミリー探しです。この紙面をご覧になっている皆様、ぜひともホストファミリーにご応募ください。

支部活動をサポートするボランティアも必要です。ホストファミリーへの応募を呼びかけたり、資金集めの活動に参加したり、支部名簿を作成したり、資金面で協力したりと、多種多様な形でボランティアに参加することが可能です。いろいろな人との出会いもまたよい経験になるでしょう。

首都圏ならではの特徴を生かして

首都圏は、多くの学生が集まる地域でもあります。50年近く前、初期のリターニーたちが学生時代に東京でAFS活動をスタートさせた名残で、今でも東京では大勢の学生が活躍しています。また、事務局が東京にあることで、他地域とは多少異なる役割もできます。首都圏ならではの特徴を生かしつつ、各支部がそれぞれの地域に根を下ろし、互いに助け合える環境を整えていきたいと考えています。ぜひとも多くの方々のお知恵とご協力をお願いいたします。



(仲村 邦子／神奈川支部長)

首都圏支部の支部長よりひとこと

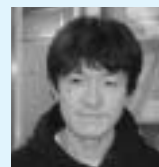
●京葉支部(支部長 笠間 雄三)

東京都の東の3区(葛飾・江戸川・江東)と千葉県全域を担当し、現在、同地域内の社会人および学生ボランティア20名で、地域に密着した草の根国際交流の拡大を目指しています。



●埼玉支部(支部長 菅原 基)

支部員4名からスタートしました。今年は活動の輪をさらに広げるべく、ホストファミリー、支部員の募集に力を入れたいと思います。



●東京(区部)支部(支部長 伊奈 俊子)

仲間作りに力を入れた一年でしたが、今年はもっと外部との交流も盛んにして地域に貢献したいと思います。地方の支部に負けないような活動の基盤を作りたいです。



●東京多摩支部(支部長 花輪 宗命)

東京都区部の西側に広がる多摩地域と所沢・川越など埼玉の一部をカバーする支部です。ベテランの社会人ボランティアと、若々しい発想力、行動力を備えた学生ボランティアとの緊密な連携の下に、素晴らしい支部に育ちつつあります。

●湘南支部(支部長 遠山 信彦)

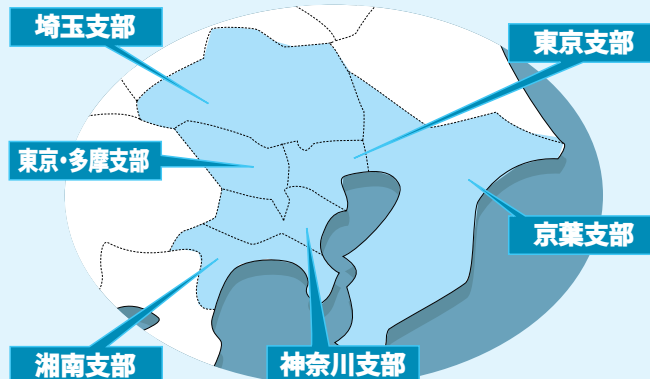
神奈川県南部を中心に多くの方々のご協力で見事一年が経過しました。「相手の立場を大切に」「焦らず一歩一歩、着実に」を念頭にAFSの理念を皆で推し進めていこうと思います。



ホストファミリーおよび支部活動にご協力いただける方は、東日本事務所までご連絡ください。

☎03-5251-0175 FAX 03-5251-0177

E-mail info-east@afs.or.jp



ボランティア活動を見直すよい機会に ～タイ ボランティア・エクステンジに参加して～ 小西 滝人（松江支部）

2月2日から12日まで、ボランティア・エクステンジプログラム^(注)に参加し、日本からの7名のボランティアと共にタイのバンコク、プーケットをまわり、地元AFSや学校の絶大なる歓迎を受けました。香港からも2名のボランティアが合流し、日本語・中国語・タイ語が飛び交い、共通語は英語という国際色豊かなグループになりました。

バンコクでは、学校訪問、寺院巡り、メコン川支流に面したタイ式住宅での宿泊体験、ホストファミリーとの語らいや市民生活の体験などなど、それは有意義な日々を過ごしました。特に果樹を栽培する兼業農家を営む私のホストファミリーの暮らしぶりはとても興味深いものでした。



▲寺院と訪れた日本と香港のAFSボランティア



▲タイの学校を訪問。右手が小西さん

ホテルに滞在したプーケットでは、夜になると参加者たちが一室に集合し、連夜のAFS談義が繰り広げられました。日本の50周年、タイの40周年、香港の20周年をテーマに、それぞれのAFSの組織論などで大いに盛り上がり、再会をかたく約束して別れました。

年間受入生がまもなく来日します。私たちがタイで受けたような心温まる対応を、彼らに対してもできるでしょうか。今回の経験は私たちのボランティア活動を見直すよい機会にもなりました。今後の活動にぜひ生かしていきたいと考えています。

(注) AFSボランティアの相互理解を促進する目的で、AFSタイとの間で約2週間の派遣と受入れを交互に実施するプログラム

法人募金への取り組み

財務委員会より

今号は、法人に対する取り組みについて紹介します。法人に対しては、通常の一般寄付のほかに次のような選択肢を示して協力をお願いしています。皆様のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

法人サポート会員

毎年一定額以上の寄付を継続していただける法人を「サポート会員」とよびます。

刊行物の提供、イベントへの招待のほか、AFS年間派遣プログラムの募集冊子などで法人名を紹介します。

奨学金拠出

各奨学金の目的を明示して拠出を募ります。毎年1名分以上の奨学金を拠出していただける場合は、法人名を付した(冠)奨学金として扱います。

マッチング・ギフト

企業の社会貢献の一つの形として、社員個人の寄付と同額以上を企業も寄付する制度です。去る2月に、2つの企業からマッチング・ギフトを受けました。米国では一般的ですが、日本ではこれからです。帰国生の多い企業を中心に導入を呼びかけますが、この制度がある企業をご存知の方はぜひ募金担当までご一報ください。

現物供与

企業が自社の製品・サービスを、これらが必要とする公益法人に寄付するもの

で、Product Philanthropy または In-Kind Contributionとよばれ、米国では税控除の対象となるため広く行われています。日本の税制では、現物寄付の明文規定がなく、営業割引の形で協力をお願いするのが現実的です。領収書の発行はできませんが、相当額をご協力頂いた法人として扱います。今年度より、ホテル日航成田に、宿泊とブリーフィング用施設の利用についてご協力いただけることになりました。

法人募金に関するお問い合わせ先:

募金担当 畔柳(くろやなぎ) ☎03-5251-0171

AFSの事業理念に賛同し、協力しています。

ホテル日航成田 ホテル日航ウインズ成田

日本留学十七年後 ①

彼女は大人になっていた…

マブソン・青眼 (俳人)

昨年9月、「NHK俳壇」というテレビ番組に出演した。放送の数日後、懐かしい女性から電子メールが届いた。その女性は、17年前、僕がAFSの交換留学生として初来日したときのホストファミリーの妹だった。当時の彼女は9歳、僕は17歳だった。ホストファミリーには他にも弟が2人いたが、やはり未っ子の妹こそ可愛い存在だったと今も鮮烈に覚えている。いつも胡蝶のように僕の周りで遊んだり、あどけない言葉で声をかけてくれたりして、僕に最初の日本語を教えてくれた無邪気な小娘だった。その妹と17年ぶりに渋谷で再会することになった。

初時雨ハチ公の折れたる耳に



彼女は26才、頼もしそうな大人になっていた。リハビリ師として勤めていて、今時珍しいぐらい礼儀正しく、品格と風情があった。話を聞くと、映画監督をしているボーイフレンドがいるとか。兄として、妹のボーイフレンドの話は少し不快に感じたが…やはり僕はまだ彼女の兄だった！僕は執筆と俳文学の研究で生活している。そして、小学校の教員をしている日本人女性と幸せな結婚生活を送っている。趣味は読書、音楽鑑賞、料理、旅、キューバ産の葉巻のコレクション…。

日向ぼこ葉巻の肌を撫でながら

ハチ公から道玄坂のシガーバーまで歩き、一緒に葉巻を吸い…そのまま別れた。

帰りの新幹線の中で、シガーケースをあけてみると、彼女が吸いきれなかった葉巻の半分が残っていた。僕は思わずそれを口にくわえた。その瞬間、はじめて「懐かしい」という日本語特有の形容詞を深く理解したような気がした。文学もきっとこのような「深い懐かしさ」から生まれるものだろう、と思った。

な
汝が吸ひし吸殻口に夏果てぬ

プロフィール

マブソン・ローラン

長野県在住。1986-87年、AFS生としてフランスから栃木県立宇都宮高校に留学。パリ大学大学院東洋学部日本文学科博士課程修了。早稲田大学大学院教育学研究科博士課程(俳文学・比較文学専攻)修了。平成12年度NHK俳句王国大賞受賞。国際俳句交流協会翻訳委員・国際委員、ほか。

受入生が感じた日本・日本人

昨年日本に滞在していた受入生たちは、こんなことを感じていました。帰国前のアンケートから彼らの率直な感想をピックアップしました。

いつも人から特別扱いされて疲れた。お箸を使うとほめられ、「こんにちは」と言っただけで「日本語が上手」とほめられる。(アメリカ男子)

日本人はとても親切で、たいいて自分よりも他の人のことを優先させる。他者を傷つけることを恐れ、あまり本心を言わないようだ。(シンガポール女子)

日本では特に大人は、静かで礼儀正しく目立たない人を好むようだが、ドイツでは面白くて興味深い個性が人気があり、静かな人はしばしば退屈だとみなされる。(ドイツ女子)

授業中に寝ている生徒がいるのに驚いた。私の国では寝てはいけない。(ラオス女子)

日本人は自分の国をもっと誇りに思ってもいいと思う。(アイスランド男子)

来日前、日本は「先進工業国で工場一杯」というイメージだった。でも実は、新鮮な空気や小川、緑溢れる木々、美しい草花、小鳥のさえずり…。自然をたくさん兼ね持つ国だと知った。(ミャンマー男子)

スウェーデンでは理解するために勉強するが、日本では覚えるために勉強する。日本人ははっきりとした意見を言わない。皆が同じように考えると、会社や政府にとって都合が良いのかも？(スウェーデン男子)

多民族国家の私の国では、異なった文化や民族に慣れている。でも日本では畏敬の念を抱いて外国人を見る。染髪しているクラスメイトにどうして茶色や金色に染めるかを尋ねたらこう答えた。「外国人ばいから…」とても興味深い。(マレーシア女子)

日本人はほめたりほめられたりが好きみたい。私の国ではお世辞と取られあまり好まれないけど。(インドネシア女子)

母親に頼りすぎ。家庭で母親が大抵何でもしてあげるの、子供は独立心に欠けるように思う。(オーストラリア女子)

※写真は記事の内容とは一切関係ありません。

活動報告

■ 新年会 (1月25日) ■

YP8期の上原 恵美さん(p5に関連記事)を近江よりお招きして、東京のホテルフロラシオン青山で開催しました。友の会の新年会も今年で3回目、毎年の出席を楽しみにしていられっ方も増えてきました。来年は50周年事業を控え、友の会新年会はよりカジュアルな形で開催を考えています。(友の会事務局)

■ ネットワーキングの集い (3月6日) ■

「亀田マジック」に魅せられて

わかり易い言葉でさりげなくレベルの高いお話をなさる亀田 紀子さん(YP9期)。「今までの人生を振り返る」、「セールスポイント」、「メンター」など、転職や起業を考える場合だけでなく、普段の生活にも役立つ問いかけがなされた。

タイトルは「やるきほんきのキャリア講座」ではあったけれど、つまりは「己を正確に知る」ことの重要性を説かれたのだと思う。

凡人には縁遠いお話も、亀田さんがなさると、自分もこれから何かに挑戦できるのではないかと錯覚できるほど身近に感じられる。「亀田マジック」であろうか。

お話の内容もさることながら、そのお人柄に感激した。知的で、洗練されているのに、気さくで、細やかな気配りをなさる、このような素晴らしい人物の体験談を直に伺うチャンスを提供してくれたAFS友の会に感謝。

文／出原 早苗 (YP10期)

*本誌110号では、亀田さんと新谷事務局長との対談記事を紹介しています。

AFS友の会
かわら版

このかわら版は皆さんの情報交流のひろばです。出会い、再会の感動、リユニオンのお知らせなどをお送りください。次回の締切は7月中旬です。紙面の都合で頂いた原稿を全て掲載できない場合もありますので、予めご了承ください。

「AFS友の会」事務局

〒105-0001 港区虎の門1-17-1虎の門5森ビル6F

財団法人エイ・エフ・エス日本協会内

FAX 03-5251-0177 E-mail tomo@afs.or.jp

2003年度活動カレンダー

5月	ネットワーキングの集い	11月	ネットワーキングの集い
7～8月	夏休み特別企画	1月	新年会
9月	ネットワーキングの集い	3月	ネットワーキングの集い

上記各行事のご案内をご希望の方は、友の会事務局まで、メールアドレスをお知らせください。<http://www.afs.or.jp/activity/tomo.html>でも友の会の活動を紹介していますのでご覧ください。

ご紹介ください!

現在、AFS友の会では、「ネットワーキングの集い」のゲストを募集しています。AFSリターニーに限らず、さまざまな方々にご登場いただければうれしく思います。皆様からのご連絡をお待ちしています。(友の会事務局)

最近2年間の講演タイトル

*宇宙でのメダカ実験とその後 *やるきほんきのキャリア講座 *ベンチャー起業家と投資家*
現役最高齢女性ラードライバー *異文化経営とコミュニケーション *異文化体験の面白さ
*ボランティア国際年にむけて *アロマセラピストへの道 *アホウドリの復活を夢見て

投稿記事

人生の節目にリユニオン

3月14日、YP44期生の帰国後5年を記念して、都内でリユニオンを開催し、16カ国に派遣された60名のリターニーが参加しました。



▲社会人としての一歩を踏み出す44期生

社会の一線で活躍するAFSリターニーの先輩から貴重なお話を伺えたらと思い、藤澤 秀敏氏(NHK報道局記者主幹/YP13期)をゲストスピーカーにお招きしました。

今まさに社会に出ようとしている我々44期生。これからの同期の仲間たちの社会での活躍がとても楽しみです。

文／堤 陽子(YP44期)、水上 怜子(同)、染谷 洋祐(同)

地域で国際交流ボランティア

高校一年生の時から横浜市の国際交流協会でボランティアを始め、ニュースレターの編集、日本語教室の先生、国際サッカー交流の英語アナウンスなど、市内に在住する外国人との交流を目的とした活動を行ってきました。

47期生としてオーストラリアから帰国後は、市の姉妹都市である米国テキサス州のコーバスクリスティ市にボランティア研修に行き、ホームステイをしながら現地の施設や教育機関などで活躍するボランティアの様子を見学しました。

この研修を通して人々と共生していくためにボランティアの存在がかけがえのないものだということを学び、これからも少しでも多くの人々と触れ合いながら、活動に貢献していきたいと思いました。

文／手島 華乃 (YP47期)

国内キャンプ・行事のお知らせ

2003年夏に各支部・地域が主催するキャンプ・行事をお知らせします。留学生や仲間との語らい、共同作業から、AFSの目指す国際交流について理解を深めていただければ幸いです。主催地域へ直接お申し込み、お問い合わせください。

AFS親睦交流キャンプ

主催 帯広支部 リターナーの会
開催地 しみず温泉フレイドイコテージ
(北海道上川郡清水町)
期間 7月26日～27日(1泊2日)
参加対象 関心のあるボランティア・中学生・高校生
参加費 3,000円程度(参加人数による)
問合せ先 帯広支部長 石田 靖雄
☎0155-48-8533

インターナショナルキャンプ東金2003

主催 多摩支部(東京・千葉・埼玉支部共催)
開催地 千葉県立東金青年の家
期間 8月4日～8日(4泊5日)
参加対象 高校就学年齢者
参加費 28,000円
問合せ先 ☎03-5251-0182(月・木18:00～21:00)
✉t-camp2003@afs.or.jp
<http://www.afs.or.jp/kanto/tama/camp2003.html>

フジサマーキャンプ 2003

主催 神奈川支部
開催地 国立中央青年の家「富士のさと」(静岡県御殿場市)
期間 8月7日～10日(3泊4日)
参加対象 高校就学年齢者
参加費 22,000円
問合せ先 神奈川支部長 仲村 邦子 ☎045-413-1765
✉fuji-summer-camp@afs.or.jp

高校生のための国際理解セミナー

主催 新潟支部
開催地 新潟市(万代市民会館・中央公民館)
期間 7月19日、20日、21日
参加対象 高校生
参加費 1,000円
問合せ先 新潟支部長 小池 泰子
☎025-231-4185 ☎025-231-4180
✉y-koike@afs.or.jp

AFS東海国際交流キャンプ

主催 名古屋支部
開催地 岐阜県郡上郡美並村「粥川の森キャンプ場」
期間 8月5日～8日(3泊4日)
参加対象 国際交流に関心のある高校生
参加費 25,000円(含バス代)
問合せ先 名古屋事務所
☎052-807-7338

AFSインターナショナル・サマーキャンプ 03

主催 関西支部
開催地 奈良県宇陀郡曽爾村曾爾高原
期間 8月20日～22日(2泊3日)
参加対象 中学3年生～高校3年生
参加費 20,000円
問合せ先 血海 実絵子 ☎090-2197-4969(携)
✉miekkori@hotmail.com

AFSインターナショナル・サマーキャンプ 03

主催 京都支部
開催地 滋賀県甲賀郡甲西町青少年自然道場
期間 8月5日～8日(3泊4日)
参加対象 中学3年生～高校3年生
参加費 22,000円
問合せ先 竹本 綾希 ☎090-7355-8151(携)
✉camp_in_kyoto2003@hotmail.com
<http://www.afs-kyoto.com>

長崎ピースフェローシップ

主催 長崎支部、ほか
開催地 長崎県諫早市自然の家
期間 8月1日～3日(2泊3日)
参加対象 九州内の中学生・高校生
参加費 12,000円
問合せ先 長崎支部 藤井 徳子
☎0957-52-5666/090-9566-0666(携)
福岡事務所 ☎092-821-2005 ☎092-821-2012

お知らせ

事務局
から

AFS年間派遣プログラム第51期生(2004年派遣)募集

今年から選考の方法が大きく変わります!

《申込み締切》 ●特別選抜試験 5月27日 ●一般選考試験 7月15日 ●支部推薦試験 未定(随時選考)

今年から、従来の選考方法に加え、「特別選抜試験」を導入しました。「特別選抜試験」は、英検準2級以上(または同等)の英語力がある応募者のために実施する特別枠の試験で、試験の実施時期が早く、派遣国の枠が広いことが特徴です。AFSが考える英検準2級(または同等)レベルは、通訳技能検定:B級、国連英検:C級、TOEIC:Dレベル、TOEFL:400点、TOEFL(CBT):100点です。

これらの資格をお持ちの方は、「特別選抜試験」での受験をおすすめします。この試験についてもっと知りたい方、留学に興味のある方は、各地域が主催する留学体験発表会にご参加ください。詳しくは各事務所へお問い合わせください。

*募集概要は、同封のチラシ「AFS年間派遣生募集!」でお知らせしています。

お問い合わせ・資料請求

●2004年度年間受入生、2003年秋短期受入生のホストファミリーも募集しています。

■東日本事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル6F
☎03-5251-0175 ☎03-5251-0177 ✉info-east@afs.or.jp

■大阪事務所

〒564-0027 吹田市朝日町3-405
☎06-6317-3955 ☎06-6317-3977 ✉info-osaka@afs.or.jp

■名古屋事務所

〒468-0051 名古屋市天白区植田1-2116
☎052-807-7338 ☎052-807-7349 ✉info-nagoya@afs.or.jp

■福岡事務所

〒814-0006 福岡市早良区百道2-7-30
☎092-821-2005 ☎092-821-2012 ✉info-fukuoka@afs.or.jp

●●● 住所などの変更、必ずご連絡ください

ご自宅、勤務先の住所などに変更があった方は、同封の「会員連絡用ファックスシート」をご利用いただくか、以下へご連絡ください。

事務局総務(☎03-5251-0171 ✉meibo@afs.or.jp)

●●● AFSNEWSがホームページからダウンロードできます

AFSNEWSがホームページ(<http://www.afs.or.jp/>)からダウンロードできるようになりました。どうぞ、ご利用ください。海外にお住まいのご友人、ご家族にもお知らせいただければ幸いです。

●●● 自動引落しのご登録をいただいている皆様へ

次回引落しは以下のとおりです。宜しくお願いします。事務局経理(☎03-5251-0171)

AFS日本協会奨学金(受入強化国)	6月26日(木)
終身会費	同上
ボランティア奨学金	8月5日(火)

●●● 年会員の方に郵便振替用紙を同封しています

年会員の方は、同封の郵便振替用紙にて会費のお振込をお願いいたします。既にお振込が完了している場合には、失礼をご容赦くださるようお願いいたします。

事務局経理(☎03-5251-0171)

●●● 50周年記念事業へのご協力をお願い

「AFS日本協会50周年記念事業」の趣意書を同封しています。各事業に関する一人でも多くの皆様のお知恵と活動参加、募金へのご協力をお願いいたします。50周年に関するお問い合わせは日本協会事務局内にある「50周年事務局」までお願いします。

50周年事務局(☎03-5157-9155 ☎03-5157-9966 ✉50jimu@afs.or.jp)

●●● 前号のお詫びと訂正

114号の以下の記述に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
P3「AFS海外事務局より」
(誤) AFSフィンランドは50年間に～約350人のAFS生を～
(正) AFSフィンランドは毎年約350人のAFS生を～

編集後記

2000年1月発行の105号の特集記事「AFS日本協会45周年」で、在日留学生らが語った言葉が印象的です。あれから4年、来年は50周年になります。今までの50年の活動をこれからの50年につなげるために、AFS関係者全員が全国で参加できる記念事業の準備に奔走する日々です。皆さん、ぜひご参加ください!!(佐藤)